

パセリ農家の悲願

作・阿部慎一郎

登場人物

パセリ三兄妹

パセ・パセ夫

長男

パセ・パセ美

長女

パセ・パセリ子

次女

定食屋のメニュー

エビフライ

定食屋の人気メニューNo. 2

マスターハンバーグ

定食屋の人気メニューNo. 1

人間

花穂（かすい）

パセリ農家のおばさん

菊子

定食屋の主人の娘

海髪（おごのり）

定食屋の常連。

シーン 1

夜22時。東京都北池袋にある古びた雰囲気のレストラン。店内にはテーブルと椅子。

この店の常連客である、海髪が座っている。

テーブルの上には、料理を食べ終えたであろう皿と箸が置いてあるが、皿の上には3つのパセリが残されたまま。

海髪 菊子ちゃん。

菊子(声) はあい。

海髪 お会計お願いします。

菊子、登場。

菊子 ハンバーグ定食、480円ね。

海髪、財布から適当に小銭を取り出して菊子に渡す。

海髪 ご馳走様でした。

菊子 いいえ、いつもありがとう。

海髪 うん、また明日。

海髪、その場から去ろうとする。

菊子 あ、海髪さん、待って。

海髪 なに？

菊子 またパセリ残してる。

海髪 え、ダメかな。

菊子 子供じゃないんだから食べなさいよ。

海髪 うん。

菊子 ……食べないの？

海髪 うん、パセリ嫌いなんだよね。

菊子 あら、

海髪 菊子ちゃん、食べていいよ。

菊子 私が？

海髪 うん、お願い。
菊子 えー。

菊子、皿の上のパセリの一つを手で摘んで耳に当てる。

菊子 ……（海髭に）私じゃダメだって。

海髭 え。

菊子 パセ夫は、あなたに食べて欲しいって言うてる……。たまには食え、ボケカス！って。

海髪 ごめんなさい。

菊子 （再びパセリを耳にあて）うん、（海髭に）絶対許さないって。

海髪 何で。

菊子 今食べた方がいいわよ。皿に残した奴全部。

海髪 いやあ、それは無理だよお。

菊子 どうして？

海髪 だって、食べたこと無いもん、パセリ。

菊子 食べたことない？

海髪 そう。

菊子 食べたことないのに、嫌いって……ひどくない！？

海髪 まあ、ねえ、パセリは料理の飾りだしねえ。

菊子 あーあ、かわいそうなパセ夫、パセ美、パセリ子……お願いだから食べて。

海髪 じゃないと大変な目に遭うわよ。

海髪 大変な目って何だよ？

花穂、登場。

花穂 今年はおいしく出来たと思ったんだけどねえ。

菊子 来てしまったわ。

海髪 誰だよ、コイツ。

菊子 パセリ農家の花穂さんよ。

海髪 農家の人？ 何でこんなところに。

花穂 パセリはねえ、せつかく育てても、ほとんどが捨てられちゃうんだよ。わたしや、どうすればいいんだい。わたしや、どうすればいいんだい……？

花穂、泣いてしまう。

菊子 これでも食べないつもりなの！？
海髪 分かったよ。食べりゃいいんだろ食べりゃ！
花穂 (泣き止む。)

海髪、皿の上の。パセリを手で摘まむ。

海髪 苦そうなんだよなあ。

菊子 文句言うな。

海髪 いただきます。

菊子 残してごめんなさいだろ。

海髪 これから食べるんだから、静かにしてよ。

海髪、パセリをちよつとかじる。

菊子、花穂、笑顔。

花穂 食べてもらえて良かったね、パセ夫。

海髪、パセリを吐き出してしまう。

パセリは床へ落下。

海髪 まずっ……、草の味がするよお。

菊子 今から拾って食べなさい。

菊子、床に落ちたパセリを拾う。

海髪 でもそれ、床に落ちた奴だよ。

菊子 感謝して残さず食べる。ママからそう習わなかったの？

海髪 無理だよ。

菊子 3秒ルール！

菊子、海髪に無理やりパセリを食わそうとする。

抵抗する海髪。

海髪 や、や、やめてー！

花穂 菊子さん、もうお止めなさい。

菊子 花穂さん。

花穂 嫌がるのを無理矢理食わせる方が悲しいから。

菊子 命拾いしたな。

海髪 ……。

花穂 あなた。

海髪 はい。

花穂 頑張って口に入れてくれてありがとね。もしかたどこかでパセリを見かけた
ら、その苦い味も、たまには思い出して下さいね。

海髪 はい、なんか、すみません……失礼します。

海髪、退場。

パセ美（声） ごめんなさい、おばさん。

花穂 （皿の上のパセリに） お前たちは何も悪くないよ。

パセリ子（声） あいつ、いつも私たちのことを残すのよ！

花穂 そうだ。パセ夫は無事かい？

菊子 葉っぱから下の部分がもうペシャンコのグチャグチャよ。

パセ夫（声） お……ば……さん（吐血）。

花穂 パセ夫！ しっかりしい！

パセ夫（声） でも、これでいいんだよ、おばさん。俺は自分の生き方を貫いたんだ。パセリ
は料理の飾りじゃない。食い物だ！

パセ美（声） 私、ちゃんと兄さんの分まで食べられてくるね。

パセ夫（声） 後は、頼んだぞ。

○心肺停止の音。

2 葉（声） にーさん！！

2 人 （号泣。）

シーン2

○卒業式っぽい音楽。

回想シーン。

花穂さんがいる。

(声) 只今よりい、第45回茨城県立、花穂さんのパセリ農園卒園式を執り行います

卒園。パセリ入場。

○拍手の音。

パセ夫、パセ美、パセリ子、登場。

(声) 卒園証書授与。1年2組。パセ・パセ夫。

パセ夫、前に出て天を仰ぐ

パセ夫 はい。

花穂(声) あなたは花穂農園における全過程を修了し、おいしく育ったので、ここに出荷
されることを認めます。おめでどう！

天から卒園証書が降ってくる。

パセ夫、それをキャッチする。

パセ夫 ありがとう、おばさん。(元の位置に戻る。)

(声) パセ・パセ美。

パセ美、前に出て天を仰ぐ

パセ美 はい。

花穂(声) 以下同文。おめでどう！

天から巨大な卒園証書が降ってくる。

パセ美、それをキャッチする。

パセ美 大きいので、ありがとう。(元の位置に戻る。)

(声) パセ・パセリ子。

パセリ子

……。

(声) パセ・パセリ子。

パセリ子 ……はい。

パセリ子、前に出て天を仰ぐ

花穂(声) 以下同文。おめでとう！

天から卒園証書が降ってくる。パセリ子、しぶしぶキャッチし、元の位置に戻る。

(声) 卒園パセリお別れの言葉。

パセリ3兄妹、前に進み出る。

パセ夫 今日、私たちは花穂農園から出荷されます。

パセ美 この先、私たちの前に広がっている世界を見て、

パセリ子 不安に身が竦み、震えるような思いがする一方で、

パセ夫 期待に胸が膨らみ、わくわくするような思いも致します。私たちは花穂さんか

ら受けた「愛」を忘れずに、

パセ美 それぞれの出荷先へと旅立っていきます。

パセリ子 半年間本当にありがとうございました。

パセリ子、卒園証書をビリビリと破く。

○卒業式っぽい音楽。カットアウト。

パセ美 パセリ子、なんてことするの

パセリ子 こんな飛んだ茶番だわ。

パセ夫 だからって、ビリビリにすることないだろ。ビリビリに！

パセリ子 こんなものに何の価値があるというのよ。

パセリ子、卒園証書を踏みつぶす。

パセ夫 あー！！

パセ夫、自分が持つてる卒業証書でパセリ子を殴る。

パセ美 パセ夫兄さん待って！

パセ夫 これはおばさんに育てられた大切な証なんだよ！

パセリ子 なら、破って当然よ！ 私の本望じゃないんだから！

パセ夫 なんだと！

パセ美 やめて！ パセリ子の葉が傷むから。

パセリ子 自分の生き方を親に決められるなんて、私のパセリ生もおしまいね。

パセ美 そんなにヤケにならないの。

パセリ子 だって、パセ美姉ちゃん、私間違って育てられたのよ。

パセ美 おばさんは、そんな風にしないから、

パセリ子 だけど今出荷されるなら、死んだ方がマシなの！

パセ美 だからさあ、

パセ夫 分かった。そんなに死にたいなら、とどめは俺が刺してやる！

パセ美 待って！

パセリ子 殺すなら殺せ！ 掛かってこいよ！ バカ兄貴！

パセ美 2人共落ち着いて！

パセ夫 ……クソが。

パセ美 ねえ、パセリ子は何がそんな不満なの？

パセリ子 本当はこんなはずじゃ無かった。

パセ美 じゃあ、本当はどうなりたかったの？

パセリ子 ……私はね、この頭に花を咲かせたかったの。

パセ美 はな？

パセ夫 はな？

花穂 はな？

全員 花！？

パセリ子 花冠を作ってもらってね。人間の頭の上でいつまでも輝き続けるのよ。

そう、私はみんなを彩る飾りになりたかったの！

花穂 飾りだと！？

パセリ子、花穂さんに掴まれて宙へ。

花穂 くだらないことを考えるのはおやめ！

パセリ子 おばさん！ なぜ蕾が芽吹く前に私たちを収穫したのですか？

花穂 花が咲いた後に収穫してしまうと、すぐに枯れてしまうんだよ。

パセリ子 飾りのパセリがあってもいいじゃない！ 私の華やかさで、人々に癒しを与えるのよ！

花穂 飾りなんてどうせ使い捨てなんだよ。すぐに生ゴミさ。

パセリ それでも！！

花穂 じゃあ、私はゴミを作ってるというのか！ この親不孝者め！ お前は破門

だ！ 出て行け！

パセリ子 言われなくても出て行くわよ！

パセリ子、ダンボールの中に入る。

花穂 お前なんて速達で送ってやる！

パセリ子、花穂さんによって梱包される。

(声) ダンボール授与。

パセリ子 (カン泣き)

○卒業式っぽい音楽。

パセ夫、パセ美も同様に梱包される。

そしてダンボールの底から足が突き抜けて、箱に足が生えるようになる。

自らの足でそれぞれの場所へ出荷。

シーン3

定食屋。

海髪が椅子に座っている。

菊子、登場。

海髭

エビフライ定食お待ち。

菊子、退場。

菊子

いただきます。

○電話の着信音

海髪、退場。

パセ夫、エビフライ、登場。

パセ夫

ここが皿の上かあ……。。

パセ夫、エビフライを見つける。

パセ夫

君も調理されてここに来たのかい？ 俺はパセ・パセ夫って言うんだ。よろしくな！

パセ夫、エビフライに手を差し出す。

エビ

皿の真ん中に立つな！ 飾り風情が！

パセ夫はエビフライに殴られた。

パセ夫

急に何するんだ！

エビ

俺がおいしく見えないだろう。添え物の癖に生意気なんだよ。

パセ夫

誰が君の添え物だって！？

エビ

だってパセリは添え物だろ？ エビフライの飾りなんだよ。

パセ夫

そんなの客の前に出されてみないと分からないじゃないか！

エビ

はっはっは。

パセ夫 何がおかしい。

エビ 俺はこの小汚い定食屋の人気メニューNo.2、エビフライだ。敵うはずがない。

パセ夫 小汚い店のNo.2だと。

エビ そうだ恐れ戦いたか。

パセ夫 ふっふー。胃の中のエビフライとはまさにこのこと。世間を知らないね、君は。なんだと。

パセ夫 茨城県内に無数に存在するパセリ農家の中でも、花穂さんのパセリは、地元の

ワイドショーで紹介されてるんだよ。

エビ ワイドショーだと!?

パセ夫 番組のおかげで、県道付近の野菜直売所では、朝のうちにパセリ全品売り切れ。全品売り切れ!?

パセ夫 買えなかった人たちの間では、パセリ一把が米俵5俵と物々交換されているのさ。

エビ どれだけ地域住民の心を驚掴みにしてるんだ!

パセ夫 ちなみに地元の神社の供物も、花穂さんのパセリだ!

エビ しかし、ここは東京の小汚い定食屋。貴様をその茨城に送り帰してやる。

海髪、登場。

海髪 いただきまーす。

2人 勝負だ!

エビフライ、巨大な箸に掴まれる。

エビ それ見たことか! 所詮、ローカルのワイドショーなんだよ!

パセ夫 くっそお!

エビ さあ、劇的勝利の瞬間だ!

海髪、エビフライの頭を箸で掴んで本体から引き離す。

○ボキ。

エビ あ。

海髪、エビフライの尻尾を箸で掴んで本体から引き離す。

○ボキ。

エビ ああ。

エビフライ、海髪に食べられる。

○バリバリメキ。

エビ ぎゃあああああ！！ 気持ちいいー！！

パセ夫 いいなー。

エビフライ、頭と尻尾だけ残され、皿の上に置かれる。

海髪 あー、おいしかった。

パセ夫 さあ、次は俺の番だ！！ 来い来い箸よ来ーい！！

海髪 お会計お願いします。

菊子（声） はーい。

菊子、登場。

菊子 エビフライ定食300円ね。

海髪 ごちそうさまでした。

パセ夫 バ、バカな……残されるだ……。

シーン4

定食屋のキッチン。

エビフライとパセ夫がいる。

エビ 俺の勝ちだな。

パセ夫 どこがだよ！？ どっちも負けじゃねえか！

エビ 添え物風情が知った口を聞くな。頭と尻尾は残されて当然なんだよ。

パセ夫 お前、それで悔しくないのか？

エビ エビフライはそういうものなの。

パセ夫 だって、このままじゃ俺たち、生ゴミになるだけだ。

ポリバケツを持ち、頭に紙袋を被った菊子、登場。

パセ夫 あ、ああ。

エビ そんなじゃ、お先に失礼するぜえ。

パセ夫 エビフライ？

エビフライ、菊子によってポリバケツを被される。

パセ夫 エビフライー！

エビ 我が生涯に一片の悔い無し。

菊子、パセ夫に近寄る。

パセ夫 や、やめろ！ 俺はまだ生ゴミになりたくない！ 助けてー！ おばさん！

海髪（声） 注文お願いしまーす。

菊子 あいよ。

菊子、退場。

パセ夫 た、助かったのか？

菊子（声） ハンバーグ定食一丁。

○音楽

マスターハンバーグ、登場。

マスター　この皿も変わらねえなあ。

パセ夫　……。

マスター　どうした？　付け合せのパセリを見るような目で俺見やがって。

パセ夫　誰だよ。

マスター　忘れちまったかあ？　俺だよ、俺。ハンバーグだよ！！

パセ夫　だから、誰だよ。

マスター　俺はこの小汚い定食屋の人気メニューNo.1、子供も食べる！

パセ夫　今日は人気者に囲まれる日のようだなあ。

マスター　なんだ。やけにナーバスそうだな。

パセ夫　これから俺も捨てられるんでね。

エビ　そうヤケになるな。ここも意外に悪くないぞ。

パセ夫　うるせー！　お前は黙ってるよ！

エビ　任めば都ってな。

パセ夫　（ポリバケツの蓋を乱暴に閉じる。）

菊子、登場。

マスターハンバーグとパセ夫を皿に盛る。

パセ夫　なぜ俺も皿に乗せるんだ。

マスター　この店はな、腐るまでパセリを使い回す小汚い店なんだよ！

パセ夫　（シヨックのあまり）ハ、ハ、ハンバーグ！！

菊子　ハンバーグ定食お待ち。

マスター　どうだ。絶望したか。

パセ夫　……いやいや、むしろこれは神様が俺に与えたチャンスだ。今度こそ食べてもらうぞ！！

海髪、登場。

海髪　いただきまーす。

2人　勝負だ！

ハンバーグ、海髪の巨大な箸に摘ままれ、海髪に食べられる。

○バリバリメキ

マスター ハンバーグ!!!
海髪 お会計お願いします。
菊子 はーい。ハンバーグ定食480円ね。
海髪 ごちそうさまでした。
エビ どうもいだな。
パセ夫 また負けてしまった……。

○音楽。

マスターハンバーグ、登場。

マスター この皿も変わらねえなあ。
パセ夫 なんてお前がここに?
マスター どうした? 付け合せのパセリを見るような目で俺見やがって。
パセ夫 さつき食べられたはずじゃ。
マスター 忘れちまったかあ? 俺だよ、俺。チーズinハンバーグだよ!!!
菊子 チーズinハンバーグ一丁。
パセ夫 うわあああああ!!!

暗転。

○バリバリメキ。

マスター 俺だよ、俺。豆腐ハンバーグだよ!!!
マスター 目玉焼きハンバーグだよ!!!
マスター 包み焼きハンバーグだよ!!!
マスター デミグラスハンバーグだよ!!!
パセ夫 何回使い回されるんだよおおお!!!

シーン5

店は閉店。

皿の上で深い孤独を味わうパセ夫。

ポリバケツからエビフライの音がする。

パセ夫 どうしてこんなフレッシュなのに誰も食べてくれないんだよ！

エビ パセリは定食の添え物で、料理の飾りだからだよ。

パセ夫 俺は飾りじゃない！ 食い物だ！

エビ 受け入れろ。自分の宿命を。

パセ夫 誰か俺を殺してくれ！ いや……食べてくれ！

パセ美、パセリ子、登場。

パセ美 兄さん！

パセ夫 パセ美！ パセリ子！ どうしてここに！？

パセ美 おばさんが同じ場所に出荷しちやっみたいで。

パセリ子 マジあり得ないんだけど。

パセ夫 出荷ミスか。不幸中の幸いだな！ 会いたかったよ。

パセ夫、パセ美とパセリ子を抱きしめる。

パセリ子 ちよつとパセ夫兄さん！ どうしちやったのよ。

パセ夫 妹たちよ。落ち着いて聞いてくれ。外の世界じゃ誰もパセリを食べてくれないんだ。

パセ美 嘘でしょ。

パセ夫 エビフライやハンバーグの添え物で、俺たちや料理の飾りなんだ。

パセリ子 飾り！ なんて甘美な響き！ 素敵な場所じゃない！

パセ美 ちよつとパセリ子黙って。

パセ夫 でも、いろんな皿の添え物にされて使い回されるんだぞ。

パセリ子 わお、不衛生。ちよつと嫌かな。

パセ夫 しかも海髪って人間が、朝・昼・晩、この定食屋に来て、いろんなハンバーグを頼んで、パセリだけ残すんだ。

パセ美 兄さん、絶対そいつにはパセリ食べてもらおうよ。

パセ夫 ……そうだな。

パセ美　パセリはモロヘイヤにも引けを取らない、エリート野菜だって分かってもら
うんだ。

エビ　エリートだと？　飾り風情が笑わせるな。

パセ美　あらあ、知らないの？　パセリはね、100gあたりの栄養素が野菜の中でも、
鉄分1位、カルシウム1位、カリウム1位、
なあ、

パセ夫　食物繊維2位、

パセ夫　パセ美。

パセ美　ビタミンCも3位なのよ

エビ　へえ、ちっちゃい癖に栄養満点なんだな。

パセ美　当然よ。

エビ　でもよお、100gも普通。パセリ食べないよなあ？

パセ美　なんだと。

パセ夫　待て、パセ美。

パセ美　兄さん、

パセ夫　エビさんの言う通りだ。

パセ美　え？

パセ夫　幾らパセリに栄養があっても、無駄なんだ。

パセ美　急にどうしたの？　兄さん？

パセ夫　だって、パセリは料理の飾りなんだ。

エビ　お、ついに認めやがったか。

パセ美　正気なの？

パセ夫　ああ、俺はこの定食屋の中で全てを悟ったんだ。

パセ美　ここじゃそうかもしれないけど……、せめて食べられるまで頑張ろうよ。

パセ夫　パセ美はまだ皿に並んだ事無いから、そんなこと言えるんだ！

パセ美　だけど、思い出して、パセ夫兄さん。

パセ美、懐から卒業証書を取り出す。

パセ美　おばさんも頑張って欲しいと祈ってるよ。

パセ夫　……そんなの、タダの紙切れだ。

パセ美　兄さんのバカ！

パセ美、パセ夫をビンタ。

パセ美　そんな情けない兄さん見たくなかったよ！

パセ夫 食べてもらえなくていいんだよ。パセリは飾りなんだ。

パセリ子 やつと気づいたわね。パセ夫兄さん。

パセ夫 パセリ子、

パセリ子 ……パセリは元々花よ。飾りの方が需要高いんならそれでいいじゃない！美しく輝いてみんなに彩を与えるのよ。

パセ夫 パセリは、飾り……あはは。

パセリ子 うふふ。

パセ夫 あはは。

パセリ子 ようやく分かり合えたわね。兄さん。

パセ夫 あの時、急に殴ってごめんな。

パセリ子 いいのよ。

パセ美 ちよつとちよつと、茨城にいた頃を忘れたの!?

パセ夫 パセ美……うるせえ!

パセ夫、パセ美を殴る。

パセ夫 さつきはよくもビンタしてくれたな。痛かったんだぜえ。

パセ夫、パセ美にトドメを刺そうとする。

パセ美 やめてえー!!

○音楽。

マスターハンバーグ、登場。

マスター おいおい、何やらパセリ同士がシャキシャキうるせえな。

パセリ子 あなた、だあれ?

マスター 俺だよ、俺。煮込みハンバーグだよ!

パセリ子 あー、ハンバーグさん、

マスター ハンバーグ!

パセリ子 じゃあ、手始めに煮込みハンバーグの飾りになりましょう!

菊子(声) 煮込みハンバーグ一丁。

マスター 俺に続け。おながグーグー、煮込んでグーグー、ぐつぐつ煮込みハンバーグ。ぐつぐつ煮込みハンバーグ!

3人、退場。

エビ　なあ……妹、

パセ美　何だよ？

エビ　トランプやろうぜ。

パセ美　ほっといて。

エビ　そんなこと言わずにさあ、

パセ美　うっさい！

エビ　なあ、明日、何の日か分かるか？

パセ美　え？

エビ　木曜の燃えるゴミの日だ。

パセ美　ああ、

エビ　俺はもうすぐ死ぬんだ。

パセ美　……しょうがねえな。

エビ　ありがとう。終末は陽気に過ごせそうだ。

シーン6

定食屋。

煮込みハンバーグが運ばれてくる。

菊子

煮込みハンバーグ定食です。

海髪

菊子ちゃん、今日もかわいいね。

菊子、退場。

マスター

おなががグーグー、煮込んでグーグー、ぐつぐつ煮込みハンバーグ。ぐつぐつ煮込みハンバーグ！

パセリ子

きらきら。

パセ夫

きらきら。

パセリ子

今、ハンバーグに彩りを与えてます。

マスター

飾りってそういうことじゃないんじゃないかな。

パセ夫

白いお皿に茶色いハンバーグ、まるで便器に浮かぶうんこの様。

パセリ子

でも大丈夫。私たちパセリの鮮やかな緑が、うんこをハンバーグにします。

パセ夫

パセリ子。

パセリ子

どうしたの？ 兄さん。

パセ夫

他人のために汗を流すってこんなに気持ちいいんだな！

パセリ子

でしょお！

パセ夫

今まで自分の気持ちばかり考えてたから気づかなかったよ！

海髪

あ、美味しそうなハンバーグ……ちよつと待って。パセリじゃあん。

パセ夫、巨大な箸に摘まれる。

パセ夫

もしかして、食べられる？ 食べられるのコレ！？

マスター

そんなバカな！

パセ夫

やったー！！ 彩って良かったー！

パセリ子

さよなら兄さん！

パセ夫

ありがとうパセリ子！

パセ夫、テーブルの上に放置される。

パセリ子 え、嘘。
パセ夫 箸で皿の上から除けられただけだった。
海髪 何で2つも乗ってんだよー！

パセリ子、箸で摘まれて、パセ夫と同じく皿の上から除けられる。

パセリ子 ちよつと止めなさい！ ムキー！

海髪 あつてもなくても同じだろ、パセリなんて。

パセリ子 えっ（シヨックを受ける。）

海髪 さて、目障りなパセリはなくなつたし、煮込みハンバーグ、ゆっくり味わってみようかな。

マスター やつと二人になれたね。

海髪 いただきまーす！

マスター ハンバーグ！！

○バリバリメキ。

海髪 あー、うめー……。

パセリ子 私たちのことなんだと思ってるの。

海髪 ホント、うめー。

パセリ子 ちゃんと彩ってあげたでしょ。

海髪 あー、ビール欲しー。

パセリ子 ねえシカトなの！？ ……ダメだ、ホントに見向きもしてくれないんだ。

海髪 お会計お願いしますーす。

菊子（声） はーい。

パセ夫 ……待ってくれ。

海髪（声） 煮込みハンバーグ定食って500円？

菊子（声） うん。

パセ夫 まだここにいんだよ。

海髪（声） ごちそうさまでした。

パセ夫 まだ残してんだよ……ちゃんと最後まで食べるよー！！

シーン7

定食屋のキッチン。

七並べをやっているエビフライとパセ美がいる。
あまり盛り上がって無い模様。

エビ おせーなー、あいつら。

パセ美 うん、

エビ お前、この後どうするんだ？

パセ美 もう分かんない。

エビ そっか……お、これで俺は上がりだ。

パセ美 ……。

エビ よおし、次は大富豪やるか。

パセ夫、パセリ子が帰ってくる。

エビ おー、お帰り。

パセリ子 ただいま、

パセ美 ……どうだった？

パセリ子 箸で避けられたわ。

パセ美 そんな。

パセリ子 パセリなんてあってもなくても同じだって。

パセ美 ちゃんと私たちのこと必要としてくれる人だっているよ。

パセリ子 頭が緑なら何でもいいんじゃないかなあ。

パセ美 チクショー！ トランプなんてやってる場合じゃなかったわ！

エビ なんだだよ！？ 楽しかったじゃん！？ 七並べ。

パセ美とパセリ子、涙。

エビ かわいそうに、食べられもせず使い回されるのが、お前らの宿命だもんなあ。

パセリ子 私はみんなを彩たいのお……きらきら～きらきら～……

エビ 全然やりきれてねえじゃん。

パセリ子 ……何やってんだろ。私。

エビ そうそう、諦めたら何もかも楽になるぜえ。トランプやろう。

エビ、手札を切り始める。

エビ 妹たちい、手札配るから、おいでえ。

エビフライ、カードを配り始める。

パセ夫 (小さな声で) お前と一緒にするな……。

エビ 何だ。兄貴も混ざりてえのか？ ほらよっ (手札を配る。)

パセ夫 お前と一緒にするなっつってんだよ！

エビ なんだよ！？

パセ夫 俺は海髪のヤツが口に入れてくれるまで挑戦し続けるんだよ。

パセ美 兄さん。

パセ夫 好きなら食べる、嫌いなら残す。それいい。でも食べてもらえもしないまま自分の価値を諦めるのは嫌なんだよ！

パセ美 そうよ。味なんて食べてみないと分からないわ！

パセ夫 お前もよお、そのまま悔しくないのかよ！

エビ 俺はこの定食の人気メニューNo.2だ。関係無いね。

パセ夫 なら永遠にハンバーグ野郎には勝てねえな。

エビ なんだと。

パセ夫 いいか。これから俺たちは海髪に食べてもらうために、ハンバーグ野郎をNo.1の座から引きずり降ろす。エビフライ、お前も手伝え。

エビ ……ごめんだね。

パセ夫 エビちゃん！ 素直になれよ！ 本当は頭と尻尾残さず食べてもらいたいんじゃないのか？

エビ そんなことない！

パセ夫 もうつまらないプライドは捨ててさ、パセリと一緒に食べてもらおうぜ。

エビ 何を今更……。

パセ美 あなたさあ、本当にそういうところよくない。

エビ はあん！？

パセ美 兄さんのこと羨ましそうに見てたじゃない。

エビ 別にそんなじゃねえよ。

パセ美 トランプしてると分かるんだよね。

エビ ……ちっ、

エビフライ、ポリバケツを脱ぐ。

エビ　　もう腐ってらんねえしな。

パセ夫、エビフライに手を差し出す。
握手を交わす。

パセ夫　　パセリ子、お前の力も必要だ。

パセリ子　　え、私？

パセ夫　　お前の彩で俺を勇気づけて欲しいんだ。

パセリ子　　随分、都合がいいわね。

パセ夫　　頼む。

パセリ子　　ま、パセ夫兄さんの頼みなら聞いてあげてもいいわよ。

パセ夫　　ありがとう。

パセリ子、パセ夫と握手を交わす。

パセ夫　　パセ美。

パセ美　　なに？

パセ夫　　さっきは殴ってごめん。

パセ美　　いいわよ、気にしてないから。

パセ美、パセ夫と握手を交わす。

パセ夫　　ありがとう。

菊子、登場。

菊子　　話は聞かせてもらったわ。

パセ美　　菊子さん！

菊子　　私にも何かさせてちょうだい。

パセ夫　　俺たちの言葉が分かるのか！？

菊子　　ええ、実は私、花穂さんの姪っ子なの。小さい頃にパセリの収穫を手伝って
たおかげで、パセリと話せる奇病にかかったの。

パセ夫　　こりゃ好都合だぜ。

菊子　　私は今、アラサー真っ只中。結婚適齢期も、もうすぐ過ぎるし、残され者の気
持ちが良く分かるのよ。

パセ夫　　え？　海髮さんと結婚はダメなの？

菊子 ダメ。
パセ夫 分かった。菊子さんにも協力してもらおう。
エビ これで役者は揃ったな。
パセ美 兄さん。
パセ夫 どうした。パセ美。
パセ美 作戦はあるの？
パセ夫 ない。

全員、コケる。

パセ夫 でも、どうにかして、俺たちの気持ちを伝えるんだよ、海髪の野郎に。
パセ美 どうやって？
パセ夫 歌だよ、歌。
パセ美 ああ、あの歌か。
パセリ子 おばさんが水やりの時に歌ってたあの歌ね。
パセ美 根本的に何も解決しないけど、いいと思う！
パセ夫 よおし。あのイカレハンバーグと海髪の野郎に一泡吹かせてやるぞ！
ぞお！
全員 おーー！！

○音楽。

全員、退場。

海髪、登場。

海髪 ただいまー。おろしハンバーグちょうだい。
菊子（声） あいよ。

マスターハンバーグ、登場。

マスターハンバーグ！

海髪 いただきまーす、

菊子に運ばれて、エビフライ、パセ夫、パセ美、パセリ子、登場。

パセ夫 ちよつと待ったあ！ たまには食え、ボケカス！

全員「飾りじゃないのよ涙は」の替え歌で「飾りじゃないのよパセリは」を歌いだす。

海髪、ハンバーグ、曲中に劣勢になる。

海髪 苦そうなんだよなあ……。

菊子 文句言うな。

海髪 いただきます。

菊子 残してごめんなさいだろ！

海髪 これから食べるんだから、静かにしてよ。

海髪、パセ夫をちよつとかじる。

海髪 まずっ。

海髪、パセ夫を吐き出してしまおう。
暗転。

シーン8

○木魚の音。

○お鈴のチーンの音と共に明転。

パセ夫の遺影とパセ美、パセリ子、エビフライ、菊子、花穂さんがいる。

パセリ子　姉さんはこれからどうするのよ？

パセ美　私は、ハンバーグに挑み続けるわよ。まだ一泡吹かせてないからね。

マスターハンバーグ、登場。

マスター　ソースと共にあらんことを……ハンバーグ！！

マスターハンバーグ、退場。

パセ美　後から生えてくるパセリのためにもね。少数でもパセリを食べてくれる人はきつというわ。

エビ　俺も手伝うよ。

パセ美　え、あなたがいると腐敗菌がうつるしなあ。

エビ　そんな風に言うなよ。負けたままだと俺も悔しくてよお。

パセ美　しょうがねえなあ。

エビ　ありがとう！

パセリ子　姉さん楽しそうね。

パセ美　パセリ子は？ 手伝ってくれないの？

パセリ子　私は飾りになりたいのよ。

花穂　パセリ子。

パセ美　おばさん。

パセリ子　何しに来たのよ。別にいいじゃない。私がどこで何をやってようと！

花穂さん、懐から卒園証書を取り出す。

花穂　卒園証書。

パセリ子　え？

花穂　あなたは花穂農園における全過程を修了し、おいしく育ったので、ここに出荷されることを認めます。おめでどう！

花穂、パセリ子に卒園証書を渡す。

花穂 あなたが破くから、代わりを持って来ただけだよ。後は好きに生きな……。
パセリ子 そうするわよ。

菊子 花穂さんね、あなたたち兄妹のことが心配で私のところに出荷したんだって。

パセリ子 あれ？ 出荷ミスって……。

花穂 余計なことを。

海髪、登場。

手には花冠を持っている。

菊子 どうした、犬。

海髪 これ、菊子さんのために作ったんだ。被ってみてよ。

菊子 要らない。

海髪 菊子さん、パセリパセリって言ってたじゃない。これをこうするんだ。

海髪、パセ美を箸で摘まむ。

パセ美 うわー！ やめろバカーツ！！

菊子 うわー！ やめろバカーツ！！ って言ってるよ。

海髪 ダメかな。

菊子 そっちにしてあげな。

海髪、パセリ子を箸で摘まんで花冠に飾り付ける。

パセリ子 やったー。

海髪 どう、似合うでしょ？ パセリの花言葉はね、「死の前兆」なんだよ。

菊子、海髪をビンタ。

海髪 あと「勝利」と「祝祭」も花言葉なんだよ。

菊子 ふうん。

海髪 こう、メインの花を目立たせるために使うんだ、パセリは。

パセリ子 えー、私をメインにしてよ。

パセ美 花の世界でも大変そうね。

パセリ子　それでもいいもん。これが私の選んだ道だもの。
パセ美　まあ、頑張つて。

パセ美、エビフライ、退場。

菊子　しょうがねえからもらつてやるよ。

海髪　おっしゃー！　ありがとうございます。

菊子　また来なよ。

海髪、退場。

菊子　おばさん。

花穂　パセリ子、綺麗ね……。

パセリ子、花穂、見つめ合う。

—完—